

2009年4月入職

でまぢわたる 出町航

自分自身の変化を、確かに感じられる

異業種から、ゼロベースでチャレンジ

CEになる前は、他業種で営業の仕事をしていました。それまで医療にはほとんど興味がなかったのですが、母が病気になったのを機に、考え方がガラリと変わりました。

当時の仕事に対しても「本当に自分に向いているのか」という疑問を抱いていたため、思い切って医療へのチャレンジを決意したのです。ゼロからのスタートなので大変なのは承知の上でしたが、そのリスクを払拭させるくらい私を突き動かすものがありました。とは言え、再スタートには学費もかかります。

そこで昼間の授業を終えるとひたすらアルバイト。そんな生活を丸3年間続けましたが、これが不思議と辛くありませんでした。機器を扱うことも、勉強している内容も、純粋に面白い。あらゆることが新鮮で、自分の好奇心が刺激されている感じがありました。

今も、背中を押してくれる言葉がある



こうして振り返ってみると、私が歩んできた道は遠回りだったかもしれませんが、あのときの選択は間違っていなかったと思います。それを強く感じたのが、別のクリニックに異動する際にいただいた患者さまの言葉。「お願いだから行かないで」「いなくなったら楽しみがなくなっちゃう」など、様々なお声をいただきました。うれしさと名残惜しさが入り混じったような、不思議な感情が湧いてきたのを覚えています。異動した後も私の支えになっていますし、思い出す度に今も背中を押されています。

そういった経験を重ねてゆく中で、自分が理想とするクリニック像も具体的にイメージできるようになってきました。端的に言うと、患者さまに笑顔で通院していただいて、笑顔で帰れる場所であること。このイメージは今までは自分の内側だけに留めていたのですが、エキスパート CEになったことが自信につながり、周りにも発信していけるようになりました。同時に他のスタッフを気づかう声掛けも増えたと思います。責任感も芽生えているのでしょうか。自分が変わっていくのを、日々強く肌で感じています。



常に最高の
思いやり行動ができる
CIEを目指します。

出町航